

奈良教育実践学会の近況

奈良教育実践学会事務局 数学教育講座・教授 重松 敬一

「奈良教育実践学会」が、奈良県の教育実践上の課題の解決を目指し、教師のネットワークの促進の機能を持つべきものとして創立されたのは、平成十一年七月十一日である。

創立時の課題としてあげられたものを振り返ってみると、学校教育のあり方（特色ある学校作り・総合学習・地域に根ざした学校作り・ボランティア導入による学校の活性化）、学級経営のあり方（いじめ・不登校・学級崩壊）、教師の成長（教員研修のあり方・教師の専門性と資

質の向上）、新しい教育課程、学習指導・教科指導のあり方、心の教育などであった。

■三年間の学会の様子

以降、年二回、六月と二月の定例会を重ね、平成十四年六月九日に、通算七回目の大会を開催するに及んだ。会長天根氏が挨拶で強調された教科・職種・役職・立場にかかわらず教育を語りあう、「恥かき処」―自分を出して周囲の人から指摘を受けながらお互いに成長する―の精神にのっとり、実践発表が二件。質疑ともに充分な時間（一時間近く）をとってゆったりと進められた。

実践発表は毎回四件から二件で、これまで、小学校から六件、中学校二件、高校三件、大学四件、学校外三件（親の会など）がなされている。

■会員の多様性が示す学会の開放度

講演は毎回、教育大学の教官を中心に依頼している。いずれも不登校、学校改革、評価、総合学習と実践上関心の深い話題で、今回はヨーロッパの総合学習の紹介が教育実践総合センター助教授の小柳氏によっておこなわれた。

現在、学会員は八十八名で、小学校二十二名、中学校十二名、高校十二名、大学（奈良教育大）二十一名、教育委員会・研究所五名、その他三名と、県下の小中高の教師と教育大の教官・学生が大半をなすが、県外二名も含まれており、教育に関心のある人たちがすべてに開かれている。また新しく現職の先



挨拶する天根会長

生が大学院に来て学会を知り入会される方が多く、大学院生のサポート機能も果たしている。また最近の情報に誰でもアクセスできるようなホームページ

（<http://www.nara-edu.ac.jp/~shigetk/naraziss.htm>）も開設し、案内とニュースレターの内容を常時掲載している。

通常、学会の参加人数は二十人から四十人前後で、中学校の教師の多くが部活指導で参加できないことや、他の研究会と重なるなどの欠席理由が寄せられるが、他方、教官に勧められた院生の当日参加もみられる。第六回に、不登校の取り組みの発表がされた時には親の会からの参加が多数あった。

■今後の課題と展望

この三年間は、このように教科や立場を限定せず、教育実践上の問題なら何でもあり、さながら創立時の「教育のおもちゃ箱」のイメージを具現したような、懐の深い学会のありようを示せたかと思われる。しかし、まだ学会のメンバーにとって自分たちでつくり、課題を解決するための場所という意識を十分に持てる場に成り得ていないのが現状である。

今後、本学会がさらに多くの人たちのものとなり、質・量ともに発展していくことを期待してやまない。



奈良教育大学・小柳助教授による講演